

2024年7月18日
イオン琉球株式会社

奄美大島、徳之島、沖縄県北部及び西表島

沖縄の自然環境保全活動に役立てていただきます

有料レジ袋収益金約8万円を世界自然遺産沖縄基金へ寄付

2023年度分レジ袋収益金 贈呈式について

イオン琉球株式会社（本社：南風原町、代表取締役社長：鯉淵豊太郎 以下、当社）は、2021年にユネスコ世界自然遺産に登録された沖縄県北部及び西表島地域の環境保全活動にお役立ていただくため、2023年度のレジ袋収益金^{※1}を世界自然遺産沖縄基金へ寄付します。

つきましては、レジ袋収益金の贈呈式を7月22日（月）16時30分より行います。

当社では、2008年10月よりお客さまのご理解、ご協力のもと、レジ袋の原料である石油資源の節約やCO₂排出量の削減といった環境への配慮から「買物袋持参運動」を推進し、イオン・マックスバリュおよびザ・ビッグの食品売場で扱うレジ袋の無料配布を中止いたしました。

また、レジ袋有料義務化を前に2020年4月1日からは、食料品以外の衣料品・くらしの品を含む直営全売場でのプラスチック製、紙製を含むすべてのレジ袋の無料配布も終了しました。

レジ袋をご希望のお客さまには、資源の持続可能な調達および利用の考えのもと、バイオマス素材^{※2}やFSC認証紙袋^{※3}の環境配慮型素材に順次切り替え提供しております。スプーンやフォークなどのカトラリー類に関してもプラスチックから環境配慮型素材に切り替えております。

イオンではマイバッグを持参されたお客さまもレジ袋を購入されたお客さまも環境に貢献できるよう、レジ袋収益金^{※1}は地域の環境保全活動や啓発活動に役立てていただくことを目的に寄付しております。

これからも当社は、環境に配慮した商品の拡充や資源の持続可能な調達への取り組みなどを通じて、お客さまとともに脱炭素型・資源循環型社会の実現に取り組んでまいります。

記

【有料レジ袋収益金寄付の概要】

対象期間： 2023年3月1日（火）～2024年2月29日（水）

対象店舗： 沖縄県内「イオン」「イオンスタイル」「マックスバリュ」「ザ・ビッグ」
「イオンドラッグ」61店舗（対象期間中の店舗数）

寄付金額： 80,968円

寄付先： 世界自然遺産沖縄基金^{※4}

<https://churashima.okinawa/wnhof/>

※1：収益金とは有料レジ袋の販売価格（税抜）から仕入原価を差し引いた金額です。

※2：国際的な認証機関SGS SAとUL Inc. よりバイオマス認証を取得し、バイオマス素材が約30～50%含有しています。

※3：FSC認証とは、適切に管理された持続可能な森から生産された木であることへの認証です。

※4：世界自然遺産沖縄基金へは2022年度のレジ袋収益金10万1,051円を寄付しており、今回が2度目となります。

レジ袋収益金贈呈式について

1. 日時 2024年7月22日(月) 16:30~17:00
2. 場所 日本トランスオーシャン航空(株)本社内 セミナー室
(住所: 那覇市泉崎 1-20-1 カフーナ旭橋 A 街区 3 階)
3. 出席者 世界自然遺産推進共同企業体 代表 野口 望
(日本トランスオーシャン航空株式会社 代表取締役社長)
世界自然遺産推進共同企業体事務局 事務局長 波照間 弘光
(日本トランスオーシャン航空株式会社 執行役員価値創造部門長)
一般財団法人沖縄美ら島財団 理事長 湧川 盛順
【寄贈者 イオン琉球株】
イオン琉球株 取締役社長室長兼エリア政策担当 銘苅 尚一郎
4. 式次第 開式
出席者紹介
イオン琉球よりご挨拶
目録贈呈
寄贈先さまよりご挨拶
記念撮影
閉会

【ご参考】

～世界自然遺産沖縄基金助成事業について～

世界自然遺産沖縄基金(以下「本基金」)は、2021年にユネスコ世界自然遺産に登録された沖縄島北部および西表島について、普遍的な価値を未来にわたって維持していくため、世界自然遺産推進協働企業体(代表:野口望、以下「企業体」)により2022年6月21日に創設されました。日本トランスオーシャン航空(株)をはじめ、イオン琉球(株)など現在55社が加盟しております。本基金は、各企業体からの要請を受けて一般社団法人沖縄美ら島財団が管理・運営を行い、本基金の活用として、2023年11月1日より「令和6年世界自然遺産沖縄基金助成事業」の公募受付・審査を行っております。

厳正なる審査の結果、令和6年度の助成事業は下記3事業となります。

今後、世界自然遺産沖縄基金HPにおいて事業の成果を公表していく予定です。

<https://churashima.okinawa/wnhof/>

【選択事業】

1. 世界自然遺産登録地における世界遺産教育プログラム構築に必要な基礎資料の収集と教材化に資する調査研究
(大島順子: 国立大学法人琉球大学 国際地域創造学部観光地域デザインプログラム准教授)
2. 自動撮影カメラによるヤンバルクイナの親子の動向把握調査
(玉那覇 彰子: NPO 法人どうぶつたちの病院沖縄 ヤンバルクイナ飼育研究員)
3. 沖縄島北部におけるケナガネズミの道路利用の時間帯と季節性
(大賀優斗: 国立大学法人琉球大学 理学部 海洋自然科学科 生物系)